

一旅行者が見た東日本大震災からの復興状況

西村 直泰

1. はじめに

東日本大震災後の 2011 年夏から 2013 年 3 月までの間に、旅行社が企画する震災復興ボランティア計 7 回に参加してきた。その後、なかなか都合が合わず参加していなかったが、2015 年 12 月、ボランティアだけでなく、復興道路工事の視察など行える興味深い企画に参加できた。その時の様子から、専門的立場ではなく一旅行者の立場で、復興の状況を報告します。

2. 復興ボランティアの日程など

東京発着 1 泊 2 日の日程であり、初日（休日）は午後に牡蠣養殖のボランティア、宿泊は気仙沼市、2 日目（平日）は早朝に気仙沼漁港市場の見学、午前中に復興道路工事（南三陸町）の視察、午後からは南三陸町の震災語り部と一緒に震災跡の視察、夕刻に東北地方整備局の防災センター見学でした。

牡蠣養殖のボランティアは、今回、企画した旅行社が現在も継続的に募集を行っている震災復興ボランティアの実施場所です。港などの復旧は何とか終わっていますが、経済的には回復できておらず、復興への道を辿り始めたばかりの地域でのボランティアでした。

気仙沼市は、2011 年夏、私の最初の震災復興ボランティア地であり、その後、なるべく宿泊地が同市である震災復興ボランティアに参加するようにしている、私の復興状況定点観測地です。また、南三陸町は 2012 年、2013 年と連続して震災復興ボランティアで活動した地域です。どちらも、当時と復興状況を比較できる地であったことが、今回、震災復興ボランティアに参加した動機の一つです。

3. 復興状況 1「復興道路工事視察」より

復興道路とは、三陸沿岸道路（宮城県仙台市～青森県八戸市、総延長 359km）のことで、南三陸町の工事現場 3 ケ所を視察することができた。

三陸沿岸道路は、沿岸の低地部を走る国道 45 号線が東日本大震災で壊滅状態になった反省を踏まえ、かなり標高の高い場所を選定して作られている。このため、山を削り、谷を埋め、または、橋を架け、トンネルを掘るという大規模工事であり、普通であれば長い年月を掛けて作られるが、それを大幅に期間短縮して工事を実施する道路ということです。



図 1 (3 枚) 橋・トンネル工事現場

橋とトンネルの工事現場は近隣しており、その様子を図 1 に示します。多くの工事現場が同時進行で建設を進めているようです。

山を削り、谷を埋め道路を作っている現場は、南三陸町の復興商店街さんさん商店街の横に位置していました。図 2 は、さんさん商店街横の道路から撮影した工事現場への出入口です。

この工事現場は、商店街に近いので発破を掛けることができず、超大型ブルドーザーなどの重機

を駆使して工事を進めているとのこと
です。これら工事現場の供用開始時期
は平成 28 年度（2017 年 3 月 20 日に開
通）です。

視察の移動時に気づいたのですが、
近隣の道路は工事用車両が多く走行し
ており、通勤時間帯はかなりの渋滞を
引き起こしていました。工事完了まで
の間の被災地の皆さんの苦労が押し量られます。



図 2 (2 枚) 商店街近隣の工事現場

4. 復興状況 2「被災地定点観測」より

気仙沼市の復興状況を紹介します。図 3～5 を参照ください。図 3 は気仙沼プラザホテルから北方
向を撮影した気仙沼港の北端の様子です。3 枚とも一部の岸壁に水溜りがあるのがお判りでしょうか。
地盤沈下のため、満潮時に海水が溢れ、水溜りになる状況が今も続いています。当然、漁獲高日本
一の気仙沼港、魚市場のある部分は既に盛土がなされ復旧しています。また、対岸に目を向けると、
中央やや右手にあった白の大きな建物が取り壊され更地になったままであることも判ります。



図 3 気仙沼港北端の様子（左から 2011 年夏、2012 年夏、2015 年 12 月）

続いて、図 4 は気仙沼港魚市場から東方向の対岸の様子です。
写真のクレーンの近隣で、2011 年夏に田んぼのガレキ処理ボランティアを行いました。その時、農
家の方からは「再来年には米を収穫したい」とお聞きしました。



図 4 気仙沼港魚市場の対岸の様子（左から 2011 年夏、2015 年 12 月）

しかし、今や災害対策として新設されている道路
で田んぼ自体がなくなっています。

図 3、図 4 の位置関係が判るように気仙沼港付近の
地図を図 5 に示します。

図 5 気仙沼港付近の地図
(Yahoo! 地図より抜粋)



5. 復興状況3「南三陸町震災跡の視察」より

気仙沼市に隣接する南三陸町の復興状況は、皆さんもニュースでご存知かもしれませんが、住宅は高台に集団移転することになっています。

では、元の住宅地などはどうなるかというところ、東日本大震災による津波の到達点近くまで盛土し、商店街や工場などを建築することとなるそうです。しかも、この盛土部分は住宅地にはしないとのこと。盛土造成の様子を図6に示します。

写真は南三陸町で一番知られた建物ですが、すっかり周囲を盛土で囲まれていました。



図6 南三陸町の様子

6. 終わりに

東日本大震災から5年。復興はまだこれから。阪神淡路大震災からの復興経験を東北で活かしていければと思いました。